

# 語研便り

大東文化大学 語学教育研究所広報(2019/10月)

## 研究発表会のお知らせ

2019年度、第3回研究発表会を下記のように開催いたします。  
ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日時 : 2019年10月21日(月) 11時～  
場所 : 大東文化大学板橋校舎 2号館6階 語学教育研究所

① 発表者 : **趙 葵欣 先生(外国語学部 中国語学科)**

題目 : 疑問詞を用いる列挙表現について  
—現代中国語の「什么 shénme」を中心に—

内容 : 現代中国語の事物をたずねる疑問詞「什么 shénme」は、列挙を表すことができ、文法形式によって列挙項目の前に置く「什么 A、B……」と、列挙項目の後に付ける「A、B…什么的」という2つのタイプがある。本発表はこの「什么」の2つの列挙表現を記述して、両タイプの統語的・語用的な差異を考察する。また英語や日本語などの類似表現と比べた上で、中国語の「什么」を用いる列挙表現の特徴も明らかにする。「什么」を列挙項目の前・後に置けるのは特別であると言えるが、後置タイプが他の語彙手段を必要とするのは3つの言語に共通して見られる。

② 発表者 : **井上 尚子 先生(語学教育研究所学外研究員)**

題目 : 高等教育の社会言語学的分析

内容 : 大学における教育・研究活動に対して社会的に認識される価値は、媒介する言語の政治経済的および社会文化的な属性に結び付いている。筆者はこれまで、留学生が英語圏の大学で学ぶこと、また「英語ネイティブ」教員が日本の大学で教育・研究に携わることを題材とし、本人たちの認識を経験的に探索し、社会言語学的な分析・検討を行ってきた。現在は、日本の大学に留学する留学生が、日本に留学し日本語で勉強・研究することに見出す意義について研究をおこなっている。本発表では、これらの経験的研究の概要について紹介する。

以上

主催: 語学教育研究所